チャレンジ工房 news

第 123 号　2021 年 6 月発行

発行先　パソコン工房チャレンジ

編集責任者　　川上　貴大

工房の日々

6 月に入ってからは、雨の気配が来ないと思ったらたまに来ていたり、どうにも掴みづらい空模様ですが、工房への客足もまた掴みづらい動きです。一日待っても誰も来ない日もあれば、2、3 人くらいが示し合わせたわけでもないのに一度に工房に集まる日もあり、1、2 人が代わる代わる来るような時が少ないように感じます。

A さんはパソコンの資格を取得するために、頻繁に工房に来て勉強をしています。文字入力に難があると考えて今はタイピング練習に専念しており、高い集中力を感じられます。Word や Excel の試験ではどうしてもタイピングを多くする必要があり、そこで時間をかけていると問題自体を考える暇が無くなります。工房にはタイピング入力の練習ができるソフトがあり、A さんもそれで練習をしているので、興味がある方はぜひ工房まで足を運んでみて下さい。

今後の予定

コロナ禍のなかでお互いの孤立を防ぐため、月に 1 回の Zoom 交流会を企画しています。

6 月カラオケ大会

6/28（月）２時－３時

ミーティング ID＝894　161 3294

パスコード：111555

６月は好きな曲をユーチューブからうつして声を出してうたいます。

まえもって曲名をスタッフに知らせてください。ユーチューブから準備しておきます。

わからないときは携帯 090-8793-2133 へ

工房の意義

最近、工房に来る所員さん達の態度に問題があるような気がします。障害を持った所員や、パソコンの勉強をしたい障害者や老人の方々が工房に来るのですが、自分とは違う特徴を持った障害者に対し配慮が足りない言動を取る事が増えてきたように思うのです。

この工房は、障害者の方々が自分で生きていく力を身に着ける場所であり、その障害特性によって人を選り好みしたりする事はありません。この工房のみならず、様々な形で働いたり、勉強したりする障害者の方は日本中、世界中にいて、様々な形の障害がそこにあります。彼らもまた尊重されるべき命であり、その価値に優劣をつけるのは誰であろうとやってはいけない事です。

ノーマライゼーションという言葉があります。障害者も健常者と同様の生活が出来る様に支援するべき、という考え方を指す言葉です。ですがそれは、健常者だけが障害者に配慮するという事ではありません。障害を持っている人が他の人より生き辛い、というのは否定できない事ですが、障害を持たない人の人生が楽という訳ではありませんし、自分と違う障害を持つ人の辛さは自分とは違います。健常者だけでなく、障害者もまた健常者や他の障害者を尊重し、助け合っていかなければなりません。健常者が障害者を軽んじるのは悲しく許せない事ですが、障害者が周りの配慮が当然であるように振る舞えば、それと同じように相手に悲しい思いをさせ、また障害者に配慮しようとする心をくじく事に繋がります。

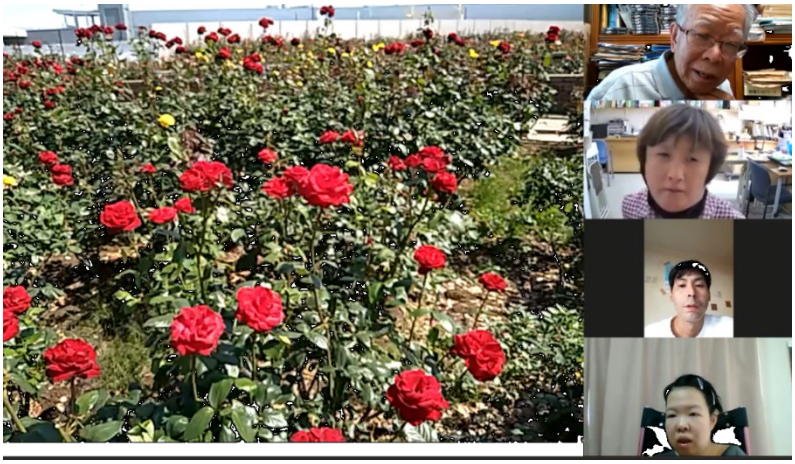
社会で生活できるという事は、自分一人だけが不自由なく暮らせる事ではありません。周りの人達と尊重し合い、助け合いながら生きていけるという事なのです。

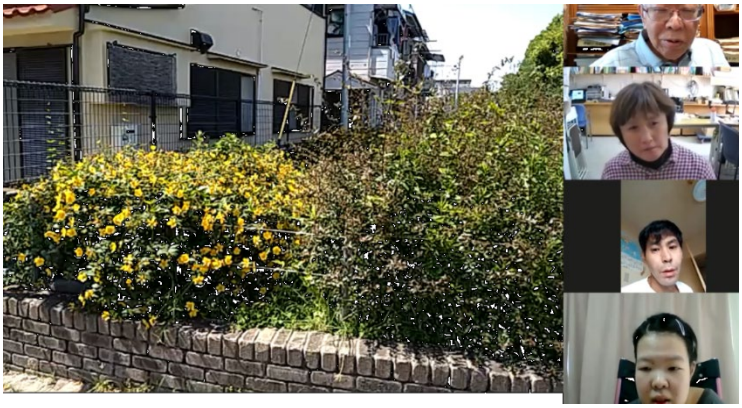
オンラインでのレクリエーションを試しました

5 月 31 日（月）に、Zoom のオンライン会議を利用して水明公園のバラ鑑賞を行いました。カメラの映像を参加者で共有し、水明公園のバラを見ていく、というやり方です。スタッフの一人がスマートフォンで参加し、そのカメラの映像を共有して公園まで行きました。

工房からほど近い場所で、以前にも花見などで行っていた公園ですが、このような形で観覧するのは工房として初めての試みです。カメラを使う都合上、一人一人が思い思いの場所を見る訳にもいかず、また水明公園のバラ園は、公園の端にある道の部分も含めれば意外と広いため、、見て回るペース等に不安はありましたが、参加した所員さん達は満足してくれたようでした。当時の写真を見ても、皆さん楽しそうにしているのが伝わってきます。

表に記載した通り、6 月 28 日（月）には Zoom でカラオケ大会を行います。以前は工房内で集まってカラオケ大会をやっていたのですが、この時勢ではそうもいきません。今回は参加希望者も少ないですが、参加する方には楽しんでもらいたいです。





どうなる、新型コロナ

ようやく緊急事態宣言が終わり、いよいよ東京オリンピックの準備が着々と進む今、そんな人の動きがどうなり、新型コロナの感染者数がどうなっていくのかなかなか見えて来ませんが、ワクチンの接種は早くも全国で 2 千万人に行われ、2 回の接種を完了させた人数に限っても 8 百万人もいます（令和 3 年 6 月 21 日時点）。

大阪市ではそろそろ接種人数の上げ止まりが来たため、若者のワクチン接種の予約も始まるそうです。都道府県という単位で見ても、以前の大阪は東京の 2 倍近い患者数の時もありましたが、今は東京より少ないくらいで、その東京も 3 千人程度しか患者はいないそうです。また、兵庫県や京都府なども患者数は千どころか 500 人を下回っており、関西のコロナ事情は大きく改善していると言えるでしょう。

今後はどうなるか予測が難しいですが、感染者数や経済が、良い方向に変化してほしいところです。